

【卒業生 学術活動報告】

視能訓練士学科 1 年制 15 期生 河本 絢香(旧姓 井ノ上)さん

No.1. 論文掲載

論文名： 単焦点眼内レンズを用いた白内障手術後近視症例における視力特性

発行年月日： 2021 年 12 月 1 日発行

雑誌名：日本視能訓練士協会誌 Vol,50.2021

抄録・概要：

【目的】以前我々は、単焦点眼内レンズ(以下 IOL)挿入眼で術後屈折値が正視付近であれば遠方から 80cm まで良好な視力であることを報告した。今回は術後屈折値が近視となった症例に距離別裸眼視力を測定し、その視力特性を検討した。

【対象及び方法】対象は当院で単焦点 IOL を挿入した 134 人 166 眼。S±1.00D 未満を正視群、S-1.00D 以上-3.00D 以下を近視群とし、そのうち S-2.00D 未満を近視 A 群、S-2.00D 以上を近視 B 群とした。4.00m ~0.32m の 12 点で距離別裸眼視力を測定して正視群と近視群、近視 A 群と近視 B 群で比較検討した。また各距離の logMAR 値の総和を視力指数とし、比較した。さらに 4.00m、3.20m、2.50m、2.00m の 4 点と 0.63m、0.50m、0.40m、0.32m の 4 点を点数化し、有用視力スコアとして比較した。

【結果】視力指数は正視群が近視群よりも良好で、近視 A 群が近視 B 群よりも良好であった( $p<0.01$ )。有用視力スコアは正視群が近視群よりも有意に良かった( $p<0.01$ )。近視 A 群と近視 B 群に有意差はなかった。

【結論】近視群よりも正視群の方が視力良好な範囲が広く満足度の高い結果が得られるように見えるが、生活習慣が術後の患者満足度に強く関わっているため、患者のニーズに合わせた度数決定が不可欠である。